

# ニュースレター

2004年7月1日発行  
 関東学院大学 キリスト教と文化研究所  
 〒236-8501  
 神奈川県横浜市金沢区六浦東一丁目50番1号  
 TEL：045-786-7873(研究所直通)  
 発行者：森島牧人  
 (Director：Makito Morishima)

INSTITUTE FOR THE STUDY OF CHRISTIANITY AND CULTURE KANTO GAKUIN UNIVERSITY

## 目次

■ 所長挨拶 新たな試みに向かって …………… 1	■ 新研究プロジェクト「バプテスト研究」の発足 …………… 4
■ 研究プロジェクト「奉仕教育における課題と実践」 …………… 2	■ 「坂田祐資料特別研究チーム」の発足 …………… 4
■ 研究プロジェクト「キリスト教と日本の精神風土」 …………… 3	■ 研究ノート …………… 5
■ 研究プロジェクト「いのちを考える」 …………… 3	■ 客員研究員の広場 …………… 7
■ 資料委員会 …………… 3	■ 出版ニュース …………… 8
	■ 金沢文庫キャンパスにオリーブの苗木を植えました！ …… 8
	■ 客員研究員のご紹介 …………… 8

## 新たな試みに向かって

所長 森島 牧人

2001年10月13日に発足しましたこの「キリスト教と文化研究所」も、早いもので三年目を迎えます。これまで当研究所に寄せられました多くの方々からのご支援ご協力に感謝いたします。さて今年度は、本研究所にとっては第二期の後半部分にあたります。各研究プロジェクトおよび作業委員会等のとりまとめをすると同時に、第三期に向かっての準備の時となります。それぞれが良い成果を得られるよう努力して参りたいと思っています。

今年度の当研究所の構成員は、昨年度と同様、文学部から選出の所員(富岡幸一郎教授、森島牧人教授、矢嶋道文教授)、経済学部から選出の所員(村上顕教授、安田八十五教授)、工学部から選出の所員(精木紀男教授、松田和憲教授、

リサ・G・ボンド助教授)、法学部から選出の所員(影山礼子教授、村椿真理助教授)、人間環境学部から選出の所員(所澤保孝教授、帆苅猛助教授、大豆生田啓友助教授)、および2名の研究員(飛田伸一教授、高野進教授)と16名の客員研究員で、総勢31名です。

研究所の運営に関しては、日々の活動の活性化を願って、所長の下に各研究プロジェクトの責任者(精木紀男教授、松田和憲教授、村上顕教授)、資料委員会の責任者(村椿真理助教授)、Web Page等広報部門の責任者(安田八十五教授)、所報等出版部門の責任者(帆苅猛助教授)および事務局からなる運営委員会を月に一度召集し、全体の調整を計っています。

研究所の事業計画に関しては、既存の三つの

研究プロジェクト（①「いのちを考える」責任者：松田和憲教授、②「奉仕教育における課題と実践」責任者：村上顕教授、③「キリスト教と日本の精神風土」責任者：精木紀男教授）に加え、今年度より一つの新しい研究プロジェクト（「バプテスト研究」責任者：村椿真理助教授）が立ち上がります。当研究所の創設が、関東学院大学「日本プロテスタント史研究所」の改組転換であったことや、関東学院大学自体がバプテスト派の伝統に立っていることを考え合わせると、とても意義深い楽しみなことであると思います。また資料委員会の中にも、昨年開催したシンポジウム「坂田祐と関東学院」を契機に坂田祐資料特別研究チーム（責任者：帆苅猛助教授）が新たに編成され、活発に動き始めています。これらの活動の一端は、本紙面においても各責任者から報告されると思います。

なお当研究所ではこれからもこうした関東学院大学らしい研究テーマを探り出し、それぞれのテーマに相応しい体制を整え、研究活動・資料研究作業のさらなる充実を計っていくつもりです。併せて本年度も、シンポジウム（奉仕教育研究プロジェクト担当）を10月に、また公開セミナーを来年2月に開催する予定にしています。また研究所報第3号に関しても、各研究プロジェクト第二期の総括に相応しいものとして刊行できるようにと願いつつ、現在所報編集委員会を中心に計画を進めています。

最後になりましたが、日頃のご理解を感謝すると共に、これからの研究所の活動すべてに、皆様方からのご支援を宜しくお願い申し上げます。

## ▶ 研究プロジェクト「奉仕教育における課題と実践」

「奉仕教育における課題と実践」研究プロジェクトでは、2002年に現場学校ではどのような奉仕が実践されているかについて、私立中学・高等学校にアンケート調査を実施して、その現状のまとめを当研究所の所報「キリスト教と文化」第一号に掲載した。2003年は奉仕とボランティアについて、中学校の国語、公民、道徳の教科書にどのような記述があるか、を調査して、研究所第二号に報告をした。また中学関東学院開設に当たり、当時の坂田祐学院長が「人になれ、奉仕せよ」を校訓として定めたのであるが、先生がそれについて書かれたものを研究し、当研究所所報第二号に掲載した。今年度は、中学校の英語教科書と小学校の国語教科書中の奉仕とボランティアについての記述に関し調査・分析を行っている。

教育改革国民会議の提言に示された、すべての若者に一定期間奉仕活動を義務として課する考え方は、行政側において少しずつ強調点のシフトが見られる。「奉仕活動」から「ボランティア活動」、それに「体験活動」が付加されてきている。これは「社会奉仕活動」を「体験活動」として位置付けする流れでもある。すでに、いくつかの学校が夏休みの宿題で、ボランティア活動を課したところがあるという。学校側がボランティア・センターや福祉協議会に相談するように勧めた。最初は、若者の殺到を喜んだ担当者は、困った問題に直面した。宿題なので仕方なくボランティアをする生徒たちの態度は、身体の不自由なお年寄りにとって侮辱でしかなかったからである。私たちは人間教育を含めてこれを考えねばならないのではないのか。

（文責：高野 進）

## ▶ 研究プロジェクト「キリスト教と日本の精神風土」

5月22日（土）に2004年度 第一回研究会を開催しました。参加者は8名、発題者は、帆苧所員、「田村直臣の『子供の権利』」と題し、発表をして下さいました。また今年度の活動予

定として、以下のように決定しましたのでご報告いたします。いずれも出席自由ですのでどなたもご参加ください。その他、今年度は3年間のまとめを行うことなどを話合いました。

- ・6月26日（土） 第二回研究会 帆苧猛所員 テーマ「田村直臣の『児童中心のキリスト教』」
- ・10月2日（土） 第三回研究会 藤原久仁子客員研究員  
テーマ「巡礼地の誕生と民俗の変容：神津島の事例より」（仮題）
- ・11月中・下旬 第四回研究会 公開研究会(外部講師を招く) テーマ「靖国神社問題」
- ・1月末 第五回研究会 まとめ研究会（年度及び3年間）

（文責：精木紀男）

## ▶ 研究プロジェクト「いのちを考える」

「いのちを考える」研究プロジェクトは、4月28日に2004年度、第一回目の研究会を開き、プロジェクトを開始して3年目の節目にあたる今年度のテーマや活動内容について話し合った。幅が広い課題ゆえに、様々な意見が交わされ、提案もあげられた。まず、メイン・テーマとしては「生の肯定と死の受容」と掲げ、各人が専

門分野の観点から研究成果をまとめ、所報に発表したいと考えている。

次回の研究会は、6月23日（水）16時から17時半 安達昇先生（客員研究員・小学校教員）により「いのちに子どもがどのように出会っているのか」ー子どもと授業ーと題して発表していただく予定である。

（文責：松田和憲）

## ▶ 資料委員会

今年度資料委員会は、年5回の定例委員会を開催し、従来通り旧研究所の資料整理、貴重図書調査の調査収集にあたる。貴重歴史資料などについての情報は常時受け付けているが、定例会において委員相互の情報交換を行い、重要資料の発見に努めるものとする。委員会の購入資料に関しては、従来の方針を踏襲するが、パプテスト研究資料などの内、海外照会・発注資料に関しては7月定例委員会において検討する予定である。夏季休業期間には、旧研究所、旧神学部

のマイクロフィルム資料の調査他を、図書館の協力を得つつ行いたい。また資料委員会には今年度より新設「特別研究チーム」として帆苧猛所員を長とする「坂田祐資料特別研究チーム」なる研究会を置くこととなった。これはひとつの資料研究グループであり、資料の解読作業にあたるものである。次回委員会は7月上旬を予定している。

（文責：村椿真理）

## ▶ 新研究プロジェクト「バプテスト研究」の発足

このたび「キリスト教と文化研究所」に、新たに「バプテスト研究プロジェクト」が立ち上げられる運びとなり、去る5月27日、学内外関係研究者9名の参加を得て、第1回の定例会が開催された。

この研究会は、旧日本プロテスタント史研究所の研究遺産を受け継ぐものであり、関東学院大学の伝統であるバプテスト派に関する神学的、歴史的研究を深めることにより、学院の伝統を継承発展させ、学院、大学、ひいては日本のバプテスト派の明日の道標となすのみならず、これによって日本におけるバプテスト研究の発展に寄与し、さらに〈教派を超えて現代日本社会に貢献できるバプテストのよき信仰の遺産を明らかにする〉との目的を掲げ設置されることとなったものである。

今日、キリスト教の伝統にたつ日本の諸私立大学が、既にそれぞれ独自の伝統に基づくキリスト教研究を行ってきているが、バプテストの本格的学術研究会は、関東学院大学旧神学部の廃部、旧研究所の活動休止来、正式には日本のバプテスト系大学のどこにも設置されることな

く今日に至った経緯があった。本研究所では活動再開当初より、こうしたバプテスト研究会の設立を求める声が多くの関係者から寄せられていたが、ようやくその実現をみることとなった。

本プロジェクトの最初の研究会は、2年中期の研究会として研究内容、研究計画概要が提示され、この4月正式に承認された。研究会は年に4回を目処として例会が開催され、今期テーマにそって各研究者が研究中間発表を行いつつ研究を進め、参加者全員が邦文研究論文を執筆、これを最終的にまとめあげ、論文集として出版、発信することを計画している。詳しい今期研究テーマや研究会参加者氏名等については、今後研究所のホームページ上に本プロジェクトのサイトを新設し、研究会開催の状況を紹介できるようにする予定である。この新プロジェクトの活動が実り豊かなものとなり、期待に応えられるものとなるよう、意欲をもって共に取り組んでいきたい。次回定例会は10月2日(土)午後3時半より、高野 進研究員より「バプテスト研究の課題」、佐々木敏郎客員研究員より「最近のバプテスト研究」(仮題)の発表が予定されている。

(文責：村椿真理)

## ▶ 「坂田祐資料特別研究チーム」の発足

「坂田祐資料特別研究チーム」の活動が始まる。今年度第一回の所員会議の承認を得て、資料委員会の中に上記のチームが発足した。これは、先般、坂田家より坂田祐先生の『日記』が研究所に寄贈されたことにより、日記を中心に坂田先生の関東学院での働き、内村鑑三との関係な

どを、もう一度捉えなおそう、との意図のもとになされたものである。

早速、5月26日(水)午後5時半から、研究所で会合を持った。委員会構成は、森島所長、安田八十五氏、坂田創氏、佐々木晃氏、佐々木敏郎氏、花島光男氏、帆苺(世話役)となって

いる。

第一回の会合では、まず、顔合わせののち、坂田先生関係の資料の保管場所、資料の内容などについての情報交換をした。そして、今後逐次、資料委員会の協力を得て、坂田先生関係の資料を整理していくこととした。

また、『日記』については、まず、坂田創氏、佐々木晃氏の協力によって解読を進め、公開については委員会での議を経て、関係者のプライバシーに配慮しつつ行うこととした。

(文責：帆苺 猛)

## ▶ 研究ノート

# 万国バプテスト協会の鹿児島伝道

— ポール・シュック宣教師へのインタビューメモ —

精木 紀男

### 1. はじめに

このメモは、第2次大戦戦後間もない1950年代のはじめに鹿児島県内を中心に伝道を開始した万国バプテスト協会の宣教師のひとり、ポール・シュック師へのインタビューを通して、同協会の宣教の働きについて述べたものである。

戦後からの伝道でかつ限られた地域での活動であるが、外国宣教団体の日本伝道の一例として、ここに紹介するものである。また、一人の宣教師が出会った戦後の日本の地方都市が見えてくる。ただ、十分な印刷資料が入手されていない現在、メモは必ずしも正確なものとはいえないことをお断りしておく。

### 2. 燦葉会鹿児島支部長小久保敏孝氏のこと

#### —インタビューのきっかけ—

1999年2月に、関東学院大学燦葉会の鹿児島支部会が開かれた。筆者は、鹿児島支部の招待で、来賓として出席した。そこで、驚いたことに鹿児島支部長・小久保氏が、筆者と信仰のルーツを同じくすることを知った。小久保氏との出会いによって、筆者が受洗(受浸)した、小さな群れ・万国バプテスト協会(教会)の現状や日本伝道の歴史など調べて見たいという願いがこのたび実現した。

小久保氏は、鹿児島県菱刈町の出身である。

父上は、愛知県渥美半島の出身で、青年期に菱刈町に来て、製材業を起こされた実業家であった。小久保氏の少年期の戦後、父上は、戦中の戦時国策によって協同組合化された鹿児島県内の木材業界の重責を担われたことにより、アメリカ占領軍によるパージを受けられたという。中学・高校時代をこのような家庭状況の中で過ごしていた小久保氏に、鹿児島市で宣教を開始したばかりの宣教師たちとの出会いがあった。

宣教師たちが住まいや伝道所探しに苦勞しているのを知った小久保氏は、父親に持ち家を貸してもらえないかを相談したところ、父親は自宅として建築中の建物をそのまま貸したのであった。父親は、ついに信仰を受け入れられなかったものの、苦境の宣教師たちに可能な限りの支援をされた。高校生時代、小久保氏は教会に入りびたりで宣教師たちを助けていた。

筆者は、その後2002年9月に、再度小久保氏と鹿児島でお会いしたが、そのときは、ご夫妻で、大口市に今もある万国バプテスト協会の大口キャンプ場にご案内いただいた。小久保氏の郷里にあるキャンプ場の建設にも、父上の大きな援助があったことを教えられた。

小久保氏が関東学院大学に進学されたのは、この万国バプテスト協会の宣教師たちとの出会い

て全家族で来日した。

なぜだか自分でもわからなかったが、日本の、南の方でとの伝道の思いが与えられていた。応募して、採用してくれた宣教団体 ABWE もまた、日本の、南の方で伝道を開始する方針であった。

鹿児島に来たら、日本で一番大きな聾啞の学校があることを知った。鹿児島で伝道しているうちに、自分が聾啞の子供を抱えていることから、聾啞の人たちに対する関心が高まり、他の人より聾啞の人たちへの愛の思いが多く与えられた。数年後から、聾啞者伝道へと導かれた。神様のご計画で準備されていたことであつたと、思わされている。

## 6. 終わりに

現在、ポール・シュック宣教師は81歳である。48年前に、はじめて、鹿児島に到着されたその日、鹿児島の中心街、天文館の付近さえも舗

装のない道路で、市内のもっとも高級な百貨店・山形屋の屋上から、アメリカ南部の黒人ボスの葬送曲が流れているのを聞いて、なんと暗いところにきたのだらうと感じられたこと、聴覚障害者への支援、やくざの車に追突した時の体験。日本でのキリスト教伝道でもっとも困難な原因を、「祖先崇拜」であると語られたこと、現在のブッシュ大統領のイラク戦争や中東政策についての質問への答えなど、もっと多く語られたが、すでに与えられた字数を超えてしまった。

関東学院のように、宣教師の働きが大きな組織として形に残っている場合、地方で地道に、目立たつこともなく伝道を続ける宣教団体の働き、いずれも主のご計画のうちに用いられていることを思わされ、日本の風土の中でキリスト教の働きを明らかにしたいものと思わされている。

## ▶ 客員研究員の広場 客員研究員として

松岡 正樹

私は現在、京都バプテスト教会の牧師をしています。横浜から遠くに住んでいますので、なかなか会合に参加できないことを残念に思っています。

二年前から資料委員会に属し、旧日本プロテスタント史研究所の図書整理や、資料収集の情報提供などの役割を行なっています。今年度は、日本におけるバプテスト関係出版目録（戦前分）の作成に取組みたいと考えています。これは私が取組んでいます日本バプテスト史研究、そして、資料委員会の目的でもあるバプテスト関連資料収集に貢献したいとの思いからです。また、関東学院大学図書館には、貴重なバプテスト関係資料が未整理のまま保管されています。資料委

員会が図書館の理解も得て、これらの整理にも貢献できることを願っています。

今年度、新しくバプテスト研究のプロジェクトが開始されますが、まさしく関東学院にふさわしいテーマであると思いますので、良き成果を期待しています。

なお個人的に将来、研究所で取り上げてほしいテーマを述べたいと思います。それは、D・C・ホルトム宣教師の優れた神道研究です。彼はアメリカン・バプテストの宣教師であり、また戦前の関東学院神学部教授を勤めた学者でもありました。その神道研究を取り上げることは、関東学院にふさわしいものであり、また研究所の目的にも合っていると考えています。

## 出版ニュース

著書名：「ワークブック よく分かるキリスト教入門Ⅰ」

著者：森島牧人、村椿真理、帆苺 猛、松田和憲

今春、関東学院大学出版会から「ワークブック よくわかるキリスト教入門Ⅰ」が出版された。本書は、現在当大学各学部でキリスト教関連科目を講じる4人の専任教員により執筆されている。本書の特色は、①関東学院大学各学部におけるキリスト教関連科目をこの一冊ですべて網羅している。②どのキリスト教関連科目も、シラバスに沿った14個のテーマから構成されている。③そのタイトルが示すとおり、すべての学生が毎時間予習からレポート作成にいたるまで、無理なく学んでゆけるように配慮されている。以上の点から考えると、本書は

読むためのテキストと言うよりは、学生が各テーマを主体的に学習するためのマニュアルであるといえる。  
(森島)



## 金沢文庫キャンパスに オリーブの苗木を植えました！

金沢文庫キャンパスにオリーブの木という声が上がった時に、葉山町で姉妹都市からオリーブの苗木が贈られて育てている、との情報が入りました。早速文学部矢嶋先生から葉山町教育委員会に苗木を何本か分けていただけないかと申し入れ、文学部に3本、町民大学などでお世話になっている葉山セミナーハウスに2本を寄贈していただけることになりました。苗木は図書館北側と入り口、体育館横の植込みに3箇所植えました。有志によるカンパで購入した分も合わせ金沢文庫キャンパスには合計で16本のオリーブの樹が植えられま

した。オリーブの苗木を植えようという小さな声が、やがてキャンパスにオリーブの実をたわわに実らせることでしょう。その日が待たれます。



## 客員研究員のご紹介

新しく入られた客員研究員の先生をご紹介します。

- ◇ 「いのちを考える」研究プロジェクト…三浦一郎（本学文学部非常勤講師）
- ◇ 「坂田祐資料特別研究」…佐々木 晃（元関東学院中・高教諭）